

絵手紙普及のため、市民の立場からさまざまな活動を精力的に繰り広げている「絵手紙発祥の地-狛江」実行委員会実行委員長の小玉真砂子さん(84)に話を聞いた。

「絵手紙発祥の地-狛江」実行委員会とは■狛江市が文化施策や街づくりに絵手紙を生かすため、平成19年12月に市内の絵手紙団体の会員、学校教諭、商工会関係者、郵政関係者が集まり、実行委員会が発足しました。オブザーバーとして絵手紙創始者で日本絵手紙協会会長(当時)の小池邦夫さんにも加わっていただきました。

市内に住む小池さんが昭和56年に狛江郵便局で日本で初めて絵手紙教室を開き、その後、全国に絵手紙が広がり愛好者が増えました。狛江でも、平成16年に狛江郵便局と狛江市が共催した「絵手紙マラソン」に、狛江市商工会が協力するなどの事業が行われ、そうした実績を踏まえて委員会が発足しました。最初は狛江市の事業でしたが、25年度から一般財団法人狛江市文化振興事業団に事業委託されました。発足当初は、狛江市商工会の曾根嘉七さんが委員長に就任し、私は副会長でした。曾根さんが体調を崩されたため、昨年4月に私が2代目の委員長になりました。

主な活動は■市内での絵手紙の普及活動のため、年2回の「連続5回講座」と月2回の「絵手紙ひろば」、年1回の「親子絵手紙教室」に加え、市内の小・中学校や高齢者福祉施設などで絵手紙教室を開き、実行委員が指導しています。「絵手紙サポーター制度」は、全国から

4,000年以上も前から世界各地で食用にされてきた6大食用豆のひとつ。日本には8世紀に伝えられ、全国各地で様々な品種が栽培されている。ゆでて食べたり、サヤのまま焼いたりして食べるほか、多くの調理法がある。市内の農家も栽培しており、3~4月に開花し、5月中旬から収穫するが、出回る期間は半月ほどと短い。

サヤが鮮やかな緑色で膨らんでおり、表面に艶があるものを選ぶと良い。サヤから取り出すと鮮度が落ちやすいので、早めに調理する。長期保存する時は塩ゆでしたものを冷凍にする。ゆでるときに塩を少し入れると豆の甘みが増す。

### 「発祥の地」の名にふさわしい数の愛好者を育てたいですね。

狛江市へ絵手紙を送ってもらう制度で、それらの絵手紙は市内の「絵手紙街角ギャラリー」や狛江駅構内のギャラリーなどに展示します。ギャラリーの展示替えや、年1回の「サポーターの集い」の開催などは実行委員が行います。狛江郷土カルタ、「わっこ」や「こまなび



「絵手紙発祥の地-狛江」実行委員会委員長

小玉真砂子さん

電子版」への絵手紙の提供など、さまざまな事業にも協力しています。実行委員は現在7人

いて、60代から80代まで全員女性で、発足時からの委員は私を含めて3人います。活動範囲が広いので、それぞれ担当を決めて活動しています。毎月1回の委員会で打ち合わせをしますが、それ以外にも度々集まっています。みんなでひとつの仕事を成し遂げるのが楽しくて、長く続いています。ただ、これからは若い人にも実行委員になってほしいです。

絵手紙を始めたきっかけ■2人の子が成長して時間的な余裕ができた頃、「ポップアップ」に入会しました。発足から少し経た頃で、絵手紙作家として活

躍し始めた小池さんが唯一市内で指導する絵手紙中心のサークルでした。私は、ほぼ同時期に女流書家の町春草さんの作品を見てほれ込み、入門しました。しばらく書と絵手紙を並行して続けましたが、実行委員会が忙しくなり、書はやめました。絵手紙を始めると、絵をかきたいと思わず、絵心があるとも思っていませんでした。しかし、かき始めるとおもしろくなり現在まで続けています。平成22年頃から広島の実母へ5年間、絵手紙を毎日送り続け、それがテレビ番組に取り上げられ、母も大変喜びました。花が一斉に咲く春は題材が多く、時間を忘れて夜中までかくこともあります。絵手紙をかくことで、季節の変化に敏感になり、題材の特徴をしっかりとらえる観察眼が養われました。

これからの課題■絵手紙愛好者は全国的には多いのですが、狛江は知名度は高いものの、愛好者やサポーターの数が多くないのが悩みです。発祥の地の名にふさわしい数の愛好者を育てたいですね。特に若い人に広めていきたいので、学校や児童館などでもっと取り上げていただきたいです。学校の先生ではない「おばさん先生」から教えてもらった絵手紙を、おとなになっても覚えていて、花がきれいな季節に両親や祖父母などにかいてくれたらいいなと願っています。

小玉真砂子さんの横顔=広島県府中市に生まれ、東京家政大学栄養学部へ入学して上京。卒業後は同大研究室助手として勤務し2年後に結婚して退職。昭和40年に文京区から狛江町(当時)へ転居。59年に絵手紙サークル「ポップアップ」に入会、60年の日本絵手紙協会の発足と同時に指導者の資格を取得。平成19年に発足した「絵手紙発祥の地-狛江」実行委員会の副委員長を務め、令和2年4月に委員長に就任。夫とのふたり暮らし。

### そらまめ



こまなびそだち



### Shop & Service Guide いらっしゃいませ...2

## サイクルハウス アライ

サイクルハウス アライは、創業90年以上という市内で最も古い自転車店のひとつ。店内にはママチャリと呼ばれるシティサイクルから、多段変速のスポーツタイプ、幼児用など形も大きさもさまざまな自転車70台以上並んでいる。専門店としての強みを生かし、用途や予算、好

みなど顧客のニーズに対応し、店主の荒井常享さん(64)と次男の宣人さん(36)が専門家の立ち場からアドバイスして販売、購入後のメンテナンスや修理などのアフターサービスに力を入れている。

現在の緑野小学校付近で農業を営んでいた店主の祖父の荒井隆三さん(故人)

が大正末期に自転車の販売を始め、昭和2年の小田急線開通後で狛江駅前周辺に住宅が増え始めたのをきっかけに4年に現在の場所へ移転した。ただ、当時の自転車は高価で、なかなか売れなかったという。店が軌道に乗ったのは隆三さんの長男の喜重さん(故人)が跡を継いだ昭和30年になってからで、一家に1台から、さらにひとり1台の時代へ普及するとともに、同店も順調に売り上げを伸ばした。

62年頃に狛江通りの拡幅に伴い店舗を建て替え、現在の店名に変更した。

販売する自転車の約7割をシティサイクルが占めるが、最近は幼児の送迎用などにアシスト付きの自転車の人気も高い。また、新型コロナウイルス感染症を心配して通勤・通学用に購入する人も増えているという。

### きめ細かいアフターサービス提供 創業90余年、高い技術と知識



荒井常享さん(左)と宣人さん

☎3480-2208 中和泉1-2-8 営業=午前10時~午後7時 水曜日休み

### 音楽のあふれる街目指し多彩なイベント

音楽の街-狛江エコルマ企画委員会では、音楽があふれる街を目指し、身近で生の音楽に触れてもらうため、多彩な音楽イベントを定期的に催している。

駅前ライブは年6回程度催しており、街角に響く生演奏に耳を傾ける人も多い。

外出が難しい人のために、プロの音楽家が高齢者福祉施設や病院、児童館、保育園、障がい者福祉施設などに出向いて演奏するエ

リアコンサートも好評だ。次世代の音楽愛好者を育てるために、児童や生徒の音楽活動にも力を入れている。市内の小・中学校で2年に1度の割合でプロの音楽家が公演するほか、合唱やプラスバンドの指導などのワークショップも取り入れている。

学校の課外活動に対して、コンクールの本番前にエコルマホールを提供し、プロの音楽家の直接指導や楽器専門店による調整会な



多くの聴衆が集まる駅前ライブ

### つなげよう 音楽の架け橋

からはエコルマホールの改修工事が予定されており、シンボルコンサートの開催ができなくなるが、休館期間中も変わらず市内各所での演奏活動を継続するほか、さらに音楽を「知る」楽しみを届けるため、連続講座の開催も予定している。

問い合わせ ☎3430-4106 一般財団法人狛江市文化振興事業団。



修理をする宣人さん

安全整備士と組立技士の資格を持つ常享さんと宣人さんが、販売時には顧客の体格などに合わせてきめ細かく調整するほか、販売後もパンク修理をはじめブレーキやチェーンなどメンテナンスにも応じている。パンクや鍵をなくしたりした場合の出張修理も行っており、好評だ。

また、令和2年4月から東京都では自転車保険が義務化されたため、相談に訪れる人も多いという。

ふたりは「狛江は坂が少なく、自転車に乗る人が多いです。自転車はエコで、健康づくりにも最適な乗り物ですが、安全に楽しむために、良い自転車を長く乗っていただくことを薦めています」と話している。